

2007/7/20 還暦記念旅行 第1日 横浜経由歌舞伎見物

この6月25日に満60歳ということで、記念に旅行することとし、会社の前期夏休みに2日間の休暇を追加して、計10日間をあてた。今日はその初日。まずは鷗沼宿まで1.3kmを歩いて移動。半分は下り坂なので、キャスターの音以外は気にならず歩けた。まだ梅雨は明けていないものの、傘も不用でラッキー。

鷗沼宿から名鉄に乗り込み、鷗沼で特急へ乗換え。名古屋からのぞみで新横浜へ行き、娘の住む洋光台へ立ち寄る。11:15 到着、まずは駅のすぐそばの本屋さんへ。TMS 8月号は本日発売、レイアウト・コンペの結果を見る。予想通り？さかがわ鉄道は「努力賞」受賞・・・つまり盾だけ貰えます。

本屋さんから外に出たところで生後六ヶ月の孫娘ちゃんと久しぶりに御対面、ファミリーレストランでしばらくの歓談の後、娘のアパートへ。「狭いながらも楽しい我が家」へと変貌していてケッコウ。

話が弾んでいるうちに次なる目的地、歌舞伎座への移動時間となったので、娘親子と別れJR根岸線で横浜駅へ。そこから、生まれて初めて乗る『京浜急行』で東銀座へと向かう。これまた初めて使うSUICAの効能は素晴らしく、文字通りすいすいと鉄道を乗り継げるのに感心。



さて本日の出し物は『蜷川・十二夜』。幕があくとハーフ・ミラーに客席、つまり『己が姿』が映っており、観客の間にどよめきが走る。そして照明が変わると、ハーフ・ミラーの背後は舞台一面のしだれ桜。その美しさに見惚れる。2ヶ月前、偶然にレンタルDVDで『十二夜』を見ていたため予習完了済ということで、演出家蜷川さんの意図が完全に理解出来、楽しい一日となった。意外だったのは、3時間の演劇であるから当然なのかもしれないが（2時間に圧縮された）映画より丁寧な作りで、むしろ本家・本元である「演劇」の方が映画よりも納得のできるものだとは合点したことである。そしてあちらこちらで『鏡』がキーワードになっている、しゃれた演出。

8時半に終演、地下鉄・東銀座から新橋へでて山の手線で東京駅へ出る。10時に東京駅・八重洲口前から専用バスでホテル日航・成田へ。11時過ぎにホテル到着。スーパーリア・ルームにアップグレードされていた。もう少し前にチェックインしていたら、更に嬉しいサービスなのだが・・・遅い時間なので、慌しくバタン・キュー・・・

2007/7/21 還暦記念旅行 第2日 成田発プラハのホテルへ

朝、ホテルのシャトルバスで10分ゆられ成田空港第2ターミナルへ。まずはエリア手前の進入道路入り口ゲートでパスポート検査。初めての経験である。10時に宅急便で別送しておいたスーツケースをJALABCでピックアップ。受付カウンターでツアーディレクターの中嶋さんがお出迎え。今回の旅行ツアーは36名の比較的大きなグループ。チェック・インはあちらで・・・???と言われて、あらためて考えてみれば、成田空港利用は10回目くらいの筈だが、いずれも名古屋や伊丹からの乗り継ぎだったので、出国手続きをここ成田で行うのは初めて。なるほどなるほど・・・とか言っているうちに手続き終了。出国ゲートに入り、カミさんお目当て?の免税ショップを探す。流石に大きく立派なモールが出来ていた。

本日の利用便はJL-8821、日本航空チャーター便でダイレクト・プラハ行き。乗り継ぎ便に比べ4時間近く短いのが売り。機材はB747-400。今となっては古さが目立つが、まだまだ現役。RWY16RからNo5ディパーチャということで離陸は少々待たされた。12:20 T/O 天候は曇り。梅雨時ゆえ、上昇中にハイスピード・エルロンの前方に有るボルテックス・ジェネレータから発生したと思われるトレーリング・ベイパーの白い煙がよく見える。それと翼端の反り上がり(何度見ても)印象的。もっと変位が大きいと聞く787は、一体どれくらい反り上がるのだろうか。そうこうしている内に機体は日本海をひたすら北上。北海道のすぐ横を通るイメージ。トラフィックが混んでいるのだろうか?大圏コースを外れている感じだが・・・???



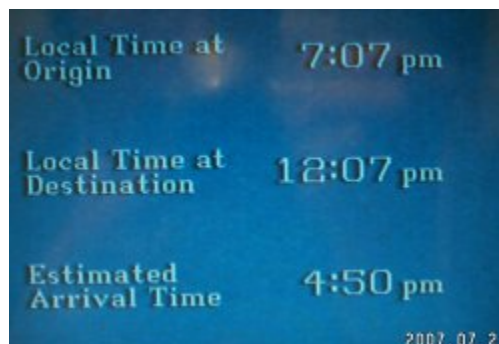
こんな感じで北海道の横まで北上します



ウラジオストック上空を通過するのは同じなのですが...



もう少し飛んでシベリア上空まで来ました プラハまであと5時間です...



季節は7月後半ということで、ゴールデン・ウイーク時とは異なり、シベリア上空から見おろす大地は緑一色。速度はジェット気流に邪魔をされて対地800km/h程度。



ドゴール空港やスキポール空港へ往くとき通るサンクトペテルブルグ上空では無く、今回はモスクワ/ワルシャワの近傍を通過し、サーマルに揺られてプラハへアプローチ。RWY06へ16:40着陸。上空から見る限り、規模は県営名古屋空港なみ思える。TAXIWAYではフォロー・ミーの車が先導。流石チャーター便？慣れていない機長さんなのかしらん。エプロンには737の他、小型の双発ターボプロップ旅客機等が見える。ターミナル・ビルは比較的新しいようだ。天候は快晴。なんせチャーター便、客の全てが団体旅行メンバー！というわけで、狭い通路のあちらこちらで10団体は超えると思われる各々のパーティが一斉に人数確認、ごった返す。人数が揃ったところでいよいよバスへ乗り込みプラハ市内のホテルへ。



昨年のノルウエーではベルゲンのホテルに入ったのが(多分)11時過ぎだったことを思えば、直行便は楽、明るいつ方のチェック・インは嬉しい。但し、四つ星ホテルの外観・部屋の広さ共々好いが、細かな点を言えば部屋のサイドテーブルに付いていた時計は止まっているし、化粧直しに必須なデスクランプもひとつ切れている。そう、ここは日本では無く、チェコ共和国なのだ！

さて水道水は取り敢えず敬遠してミネラル・ウォーターを・・・ということで冷蔵庫を開けようとして、第1番目の開門・・・絵文字にしたがってプラスチックを曲げると、ピシリと音がする。さては壊してしまったか・・・おそろおそろツアー・コンダクターへ電話。折り取るのが正解と分って

やれやれ。よく見たら、冷蔵庫の上に英語のインストラクションあり…汗、汗…。温水がやたら頭に突き刺さる（調整不能の）シャワーを浴びて、とにもかくにもオヤスミナサイ。



やっと開いた恐怖の？冷蔵庫キー



図1のとおりにするとピシリと音が…

2007/7/22 還暦記念旅行 第3日 プラハ観光

『日本航空チャーター便で行く ゆったり中欧4カ国周遊9日間』という長いタイトルを持った「クラブツーリズム」主催のこの旅、謳い文句に誘われてか、当然か、60才又はそれ以上の年齢中心で、実はそんなにハードでは無いと思っていた…のだが、なんのなんの、まずは2日目のプラハから、このきつい旅は始まった。朝から肌寒い風の舞う雨交じりの空。旧市街はバス乗り入れ禁止とやらで、まずはプラハ城の近くのバス駐車場からビニールカップで歩くことで午前中の観光開始。



この左手は深い空掘り ゴシック様式の大寺院が見事です

本日のガイドさん、お父さんが日本人ということで、外観は「こちらの人」ながら、実に上手な日本語&完璧なガイド技術。眺めが素晴らしい丘の上のプラハ城を見、急な下りの石畳を降り、有名なカレル橋を歩いて、中心部に入り、お土産屋さんで品定め・・・あの有名な映画「アマデウス」の撮影がここプラハで行われたのもうなずける旧市街の美しさは想像以上。朝方の冷たい小雨もなんのその、ご婦人方は狂喜して写真を撮りまくり・・・かつ、そのためのベストポジションを争う。当方も一日で百枚以上撮影してしまったので、人のことはそうは言えないのであるが・・・



プラハ城前の広場とプラハ市街



カレル橋から見たプラハ城

昼前に雨は止み、午後はオプション・ツアーでコノピシュチェ城を訪れる。午前中の散策で疲れてしまい、もう歩きたくなかったので、機関車風のトラクターが牽引するバスで丘の上まで連れて行ってもらった。あとから考えると大正解。お城ツアーで更に1時間立ちっぱなし。でも、第1次世界大戦の発端となった1914年6月28日オーストリア皇太子暗殺事件のその御本人の住んだプライベートなボヘミアの古城は保存状態も美しく、千点を越える趣味の狩猟コレクション！には辟易するも、なかなか得られない体験ではあった。



帰り道、天候はどんどん回復、プラハへ到着する頃にはすっかり晴れ。どうも天候はくるくる変わるのが中欧のようである。

2007/7/23 遷暦記念旅行 第4日 テルチ&チェスキークルムロフ観光

快晴のプラハを9:00に出発、結構アップ・ダウンのある田舎道を南下、途中で2軸！のレールバスを追い越したりして、美しい田園風景を楽しみながら3時間ほどでテルチに到着。ここはルネッサンス/初期バロックの統一された街並みの残る観光地（世界遺産）である。



街はずれにある小さなレストランで昼食、更に2時間以上かけて、これまた世界遺産であるチェスキー・クルムロフの街へ。なるほど『世界で最も美しい街』と言うだけのことのあるコンパクトかつ高低差に富んだ地形。河を防衛用の「堀」にするため何箇所かに堰を設けてあり、水面が一層街並みを美しくしている。この美しさにすっかり満足して今日のお宿、チェスキー・ブディエヨヴィツェへ20分かけて戻る。ただしここのお宿は旧共産圏スタンダード仕様、つまりエアコン無し、窓も開くのは2箇所だけ。暑い季節は10日間しかない筈・・・との前提。くずかごも洗面所に小さい使い難いのが一個だけ・・・10年前訪れた（ソビエト仕様！）エストニアの豪華？ホテルが懐かしい！



庭園横の高台にて 街をバックに記念撮影 この後橋を渡ってお城に入ります



橋の上から街並みを写しました 世界不思議発見で見た景色そのものです



2007/7/24 還暦記念旅行 第5日 ザルツブルグ観光&ウィーンへの移動

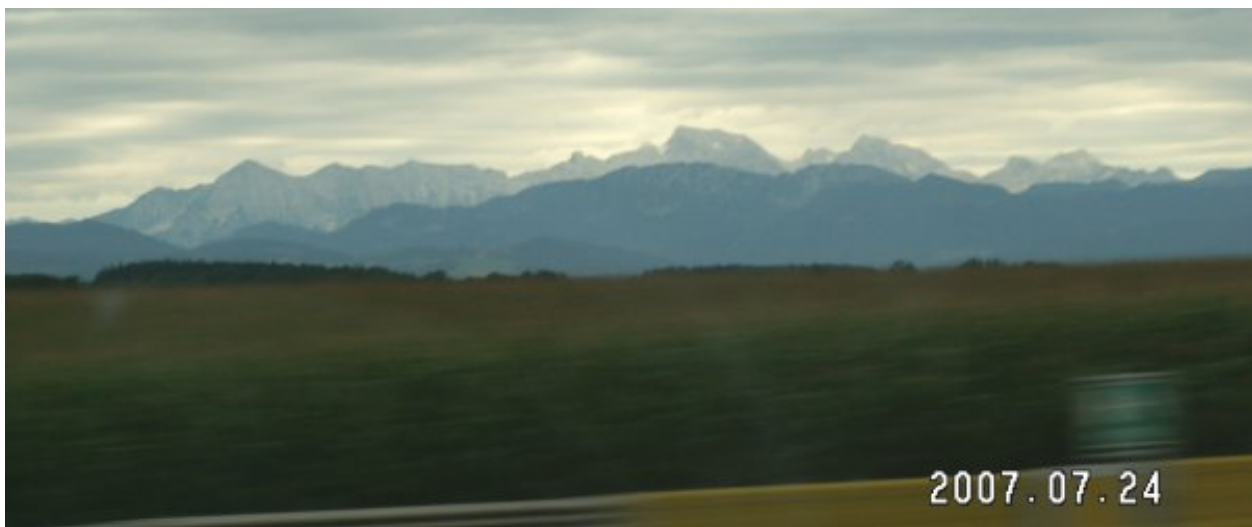


ホテルの部屋から朝日を見る



トロリーバスがもう走ってます

朝4時半が日の出だが、朝焼けで不安な予感。この時間でも既にトロリーバスが動いていることに驚く。しかも席の1/3位には人が居る!! 予想通りぱらぱらと雨が降り始めた午前8:00に国境に向けて出発。短時間で国境へ到着。出国順序待ちの列。前のバスがどうやらビザの必要な台湾人の観光客らしく、やたらに時間がかかる。やっと終わったら、今度はオーストリア入国。パスポートに検印。オーストリアに入ると景色が変わる。牧草地が多くなり、牛馬が放たれている。リッチな印象。18年前に自由諸国入りした国と違うのは当たり前か。高速道路を100km/hで走っていると遠くにドイツアルプスが見えてくる。リンツ方面という看板も目に入ってくる。



約300kmを休憩付き4時間程度で移動したが、途中のドライブ・インで泡立てたミルク・コーヒー(メランジェ)を飲む。カップ御土産付きで3ユーロくらい。カミさんお気に入り。10ユーロ札でお釣りを貰い、その中にモーツァルトが刻印されている1ユーロコインがないか探していたら、レジの女の子が5ユーロ札と間違えている事が判ってしまい、慌てる。ツアーコンダクターの中嶋さんに手伝ってもらい5ユーロ取り戻し、更に中嶋さんの持っていた2007年の美しいモーツァルトコインと手持ちのダビンチコインとを取り換えてもらう。

途中、かなり激しい雨だったので心配していたが、山を越えザルツブルグに入ると、雨脚は小降り。例によって旧市街にはバスが入れないので、大通りから入ったところで下車。橋を渡るところで街のシンボル、ホーエン・ザルツブルグ城が姿を現す。旧市街に入ると、流石に御土産屋さんが綺麗で、つつい写真をぱちり。その御土産屋さんの手前で中華料理のお昼御飯。昼食後、臨時の?ガイ

ドオバさんとドッキング。歩くテープレコーダーという趣きで、感情の入っていないことにはがっかり。サービス精神というものはどこかに忘れてきているお方である。途中、まもなく始まるザルツブルグ音楽祭の準備中の光景に頻繁に出くわす。岩をくりぬき作られたというメイン会場は立派な外観。勿論、人出もとても多く、スリの類も全国から大集結の由。実は昨日、本来予定していたザルツのガイドさん、置き引きにやられ大切なライセンスの入ったカバンを無くし、臨時のスタンドインオバサンになったとのこと。道理で・・・ね。そして、そのメイン会場近くの大聖堂に入ると、その昔のカトリック大司教の御威光にいやでも気付かされる。それほどの偉容なのである。なるほどモーツァルトが生まれ出た都市。彼の父はドイツのアウグスブルグの出身の筈だけど、この地に移り住んできた理由も判るというもの。残念ながらカフェが混んでいて坐るスペースなく、ミラベル庭園からのホーエン・ザルツブルグ城の写真を撮って終了、今日の宿泊地ウィーンへ4時間かけて移動した。有名な大観覧車の直ぐ近くにある近代的なホテルに入る。新しく、機能的で満足。



緑色の川を見ながら橋を渡る時、ホーエン・ザルツブルグ城が偉容を現しました





大聖堂の前にはマリア像 後ろの壁の天使が冠を...



モーツァルト生誕の家の前で...



大聖堂はとても立派 パイプオルガンはかくの如し



ミラベル庭園から見たお城



ザルツ・カンマーグートを通り、大きな修道院を横目に見てひたすらウイーンへとバスは走る...

2007/7/25 還暦記念旅行(後半) 第6日 ウィーン終日滞在

翌朝は快晴、暑くなる予感。9:15 出発、大観覧車を横に見て、ドナウ運河を横切り、路面電車の通っている時計回りの一方通行環状道路『リング』を通過して車内からウィーン楽友協会のホールや国立歌劇場等々を見つつ、シェーンブルン宮殿へと向かう。ここでは現地ガイド春田さんがお待ちかね。どうも予定時刻から遅れているらしい。あわてて宮殿内の入場ゲートへと向かう。時間制限で、もし遅れると1時間半待ちらしい。やれやれ間に合った。基本的に宮殿内は写真撮影禁止ゆえ、ある意味のんびりとまわれるが、ハイシーズン故の人の多さと暑さとでくたびれる。有名な裏庭は、その豪華さを競ったブルボン王朝のパリ・ベルサイユ宮殿に匹敵。季節も夏故に花が鮮やか。昨年訪れたパリはまだ5月初旬だったから、花の美しさでシェーンブルン宮殿の勝ち。



映画でおなじみの大観覧車 2軸客車風 揺れるそうです



クレーン付きの電気機関車が作業中!



煙突掃除のおじさん2名発見!



リングを走る路面電車 けっこう速い!



ウィーンフィルの本拠地楽友協会ホール



シェーンブルン宮殿入り口 さぁ慌てましょう

目出度くマリア・テレジアの暮らした宮殿を見たあとは、再びバスに乗ってベルベデーレ(眺めが良いという意味の)宮殿へ。ハプスブルグ王朝一の武将の館だった由。裏庭のスフィンクスの胸にさわるとラッキーとのことでご婦人方が率先して触っていたが、どこかの国の観光客の一行がそれを見

て冷やかすのが笑えた。その後、市庁舎横の建物にあるアインシュタインという名のレストランでお昼御飯。名物料理ウィナー・シュニツェル。北イタリア名物を遠征した将軍が持ち帰ったものだそうで、薄く叩き延ばしたミラノ風カツレツそのものである。レモンを添えて食べるのだが、美味しい。カミさんも完食。



シェンブルン宮殿裏庭 昨年パリで観たような気もしないでもありませんが、とにかく暑いです...



ベルベデーレ宮殿をバックにガイドさんに撮影をお願いしました



ベルベデーレ宮殿入り口にあるブルックナーの住んだ家とスフィンクス像とガイドの春田？さん



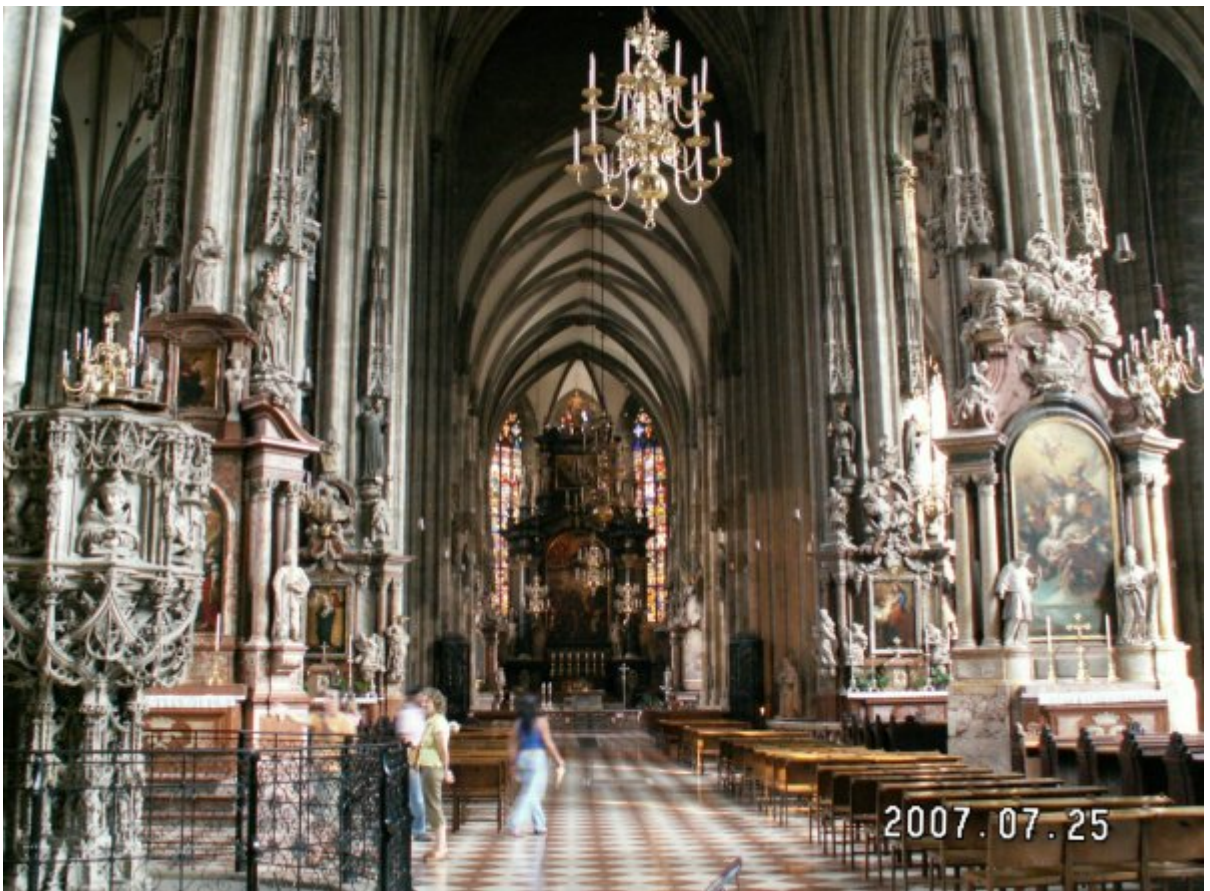
市庁舎尖塔の上には騎士の像がありました



午後はホーフブルク宮殿(王宮、現大統領官邸)、中にシシー博物館(エリザベート皇后)があり美人お妃さん「シシー」の博物館・展示コーナーではハイシーズン故の人の多さで息苦しいくらい。ガイドの春田さんの解説はまるで女講師、歯切れ良くシシーの悪口がぼんぼんと飛び出る。外に出ると、半年ほど前、BS2で見た映画『第三の男』の撮影場面を通る。4人の女神が建物を支えている確かに見覚えがある景色、帰国後ぜひ映画をまた見てみようと思う。このあと、お目当て?の土産物屋さんへ。お買い物終了後は短時間の自由行動。まずは近くのカフェ・ムゼウムへ坐りこみ、お気に入りのミルク・コーヒー(メランジェ)を注文、一緒にお水が出てきて感激、30度を越す気温+ドライな空気+長時間歩行であっという間に脱水状態の体に吸い込まれていくお水!・・・あとで調べたカミさん曰く、ウィーンではこれ(一緒にお水)が常識らしい・・・とのこと。

元気を取り戻した二人は、歩行者天国を歩いてシュテファン寺院へ。屋根のタイル?模様が美しい巨大な聖堂。国立歌劇場のお土産屋さんを覗いていたらあっという間に集合時間。食事のあと、再びシェーンブルン宮殿に戻り、グーテン・アーベントでのアラカルト・コンサート。15名弱の小編成オーケストラは弦のアインザッツがいまいちで、ティンパニーがボン付くものの、バレエダンサーと歌手が水準に達していたので良しとしよう。





荘厳なシュテファン大聖堂 御土産屋さんから歩いて15分

2007/7/26 還暦記念旅行 第7日 スロバキア経由ハンガリーへ

8:30 ホテル出発、一路スロバキア国境へ。途中、数多くの風力発電のための風車を見る。あまり勢い良くまわっているのは見られなかったが、その一方で石油汲み上げ&精製工場を見るのは奇妙な光景。首都で石油が出る所はあまり無いだろう。

首都ブラチスラバ(聖なる血という意味だそう)は国境からほんの数十分。ガイドさんとの待ち合わせ時間より15分以上前に着いてしまい、しばらく待たされる。ガイドさんは日本にダンサーとして訪れたことのある英語の先生。日本語も若干、でも難しいところは英語になり、中嶋さんが翻訳するかたち。まずはバスでブラチスラバ城へ。ここから市内が一望できる。その後徒歩で聖マルティン教会へ。奥行き深い聖堂の中は、一般大衆用の素朴な造りと、奥のハンガリー国王戴冠式典用のキンキラキン(金泥タイプ)の部分に分かれている。世界大戦中、地下に保管したあったという立派なステンドグラスが見事である。ベートーヴェンがミサ・ソレムニスを演奏したというパネルがあり、また、歴代の大司教が着た法衣の展示を見ることが出来た。旧市街にはモーツァルトやリストの訪問を記念したパネルがあり、それなりに美しいが、あまり特色があるかといえばそうでもない・・・というところ。



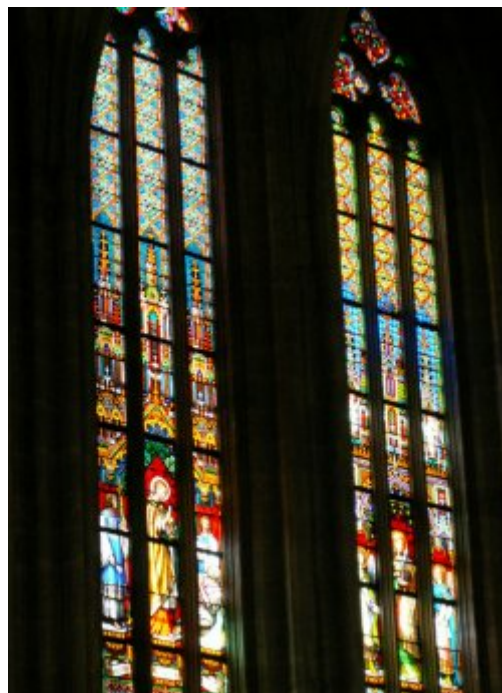
ブラチスラバ城を見上げるの図



お城の上からは風車の群れが良く見えます



聖マルティン教会の奥の天井はキンピカ



見事なステンドグラス



下から5行目はマリア・テレジアのハンガリー国王戴冠式の記録 ベートーヴェンの演奏記録も...



街の至るところにモニュメントあり

中央広場にて ナポレオンの銅像もあり

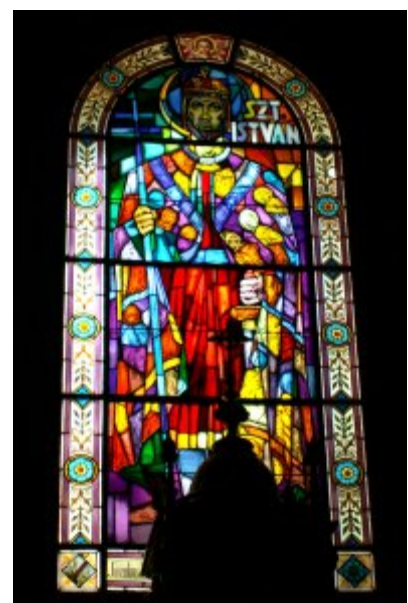
見学のあと三時間をかけてハンガリーの首都・ブダペストへ移動。景色がフラットになり、ここまではオスマン・トルコや、古くは蒙古の軍隊が容易に押し寄せてきたという歴史をに納得。ブダペスト市街を通り抜け、東駅のすぐ前にある今日のホテルは、手違いがこれあり、バス無しの狭いツイン・ルーム。とにかく狭い。まずトランクを開けるスペース無く、ベッドの上で作業開始。まあ、これも好いかと手違いを面白がる。



狭い部屋の外にバルコニーがありました そこから撮った写真がこの2枚

2007/7/27 還暦記念旅行 第8日 ブダペスト市内観光 & ドナウ川クルーズ

翌朝も快晴、気温は35度になるという。先週は最高気温41度だった(日向で45度の説あり)ということで、なるほど街路樹の葉の中にはしおれて黄色くなっているものもある。まだ我々はラッキーの部類だったらしい。このカラリと晴れ渡った空のもと、まずは英雄広場から観光スタート。ここから延びる大通りが美しいので写真を撮っていたら、この通り全体が世界遺産に登録されているときいてびっくり。個々に見るとずいぶん汚れが目立つが、旧共産圏時代に、2サイクルエンジン+灯油混合ガソリンのせいで、真っ黒に燻されてしまい、現在も洗浄が出来ていないため・・・と東京育ちの男性ガイドさん。次いで訪れた聖イシュトバーン大聖堂、最近修復なったと思われるキンキラ(金箔タイプ)の素晴らしく美しい内装である。この後、バスでくさり橋を渡り、丘の上の古い教会(マーチャーシュ教会)を訪れる。屋根のタイルが美しい。そしてその横の漁夫の砦から見おろすドナウは、何度もTV等で見慣れた?美しさ。



美しい聖イシュトバーン大聖堂のドームとステンドグラス



眼下に鎖橋が見えてます くさりというよりオートバイのチェーンのイメージ



昼食後、観光地センテンドレハバスで向かう。この町のヘレンド直営店でカップのお買物。その後、中央広場のカフェでまたまたメランジェ（現地語でメランシェ？）注文。美味。



センテンドレの目抜き通り 右手の建物がヘレンド直営店

ホテルに帰ると、なんとバス付きの広目の部屋になるという。面倒くさいなあ・・・とも思ったが、帰国準備を思うと部屋が広いほうが良いので、指示に従う。ついでにベッドも寄せて、トランクを開くことが出来るようにして、帰国準備。お詫びのワインも部屋に届く。

夕食後、くさり橋のたもとからドナウ川クルーズへ。昼間は汚れた壁が気にならないといえバウソになるブダペストの街も、最高に美しくなる。堪能してホテルへ帰還。



2007/7/28 還暦記念旅行 第9日 ブダペスト市内観光(その2) 7/29 帰国へ

本来は出発まで自由行動の予定だったが、追加オプション・ツアーに変更。10名以上で催行とのことだったが、なんと36名中、30名が参加。やっぱり自分で食事をするのが面倒だもんね。

さて、最初に見た中央市場の大きさと品数の多さにびっくり。次に訪れた西洋美術館は暑さのせいでもなんとエリアの半分がクローズ!! 見ることが出来たフロアも扇風機が熱風をかき回していただけ。でもエル・グレコ(ギリシャ人ゆえのニック・ネームとか・・・) プリュージェルの各作品が良かった。ラファエルにはついに会えずじまい・・・まあ、暑いのでいいか・・・といったところ。あとはブダペストの銀座通りともいうべきヴァーチャー通りを散策し、ドナウ川沿いに集合場所へ帰還。



左端が宿泊したホテル だんだん印象が良くなってきたのが不思議...な感じ

バスで移動し、ガーデン・レストランで食事をしていたら、一緒のテーブルメンバーに、ご主人のお母さんが鶴沼出身という方が居てびっくり。私の家から歩いて5分の大安寺に先祖のお墓がある由。その上、その方の奥さんは同じテーブルのご老人と(かなりお年は離れているものの)広島県での高校の同窓生、更に、そのご老人とそのお隣にお座りの方には共通のお友達がいて・・・ということで、このテーブルの全員が何らかの関係あり、ただただ狭い世界であるということが今回のツアー最後の食卓で判ってしまった。縁は異なるものというが・・・





このランチの後、ホテルに戻って最終チェック、15時半、ホテル出発、ブダペストの空港へ。19:45分JALチャーター便747-400機は離陸、翌日成田に日本時間で12時半に無事到着。京成特急、JR山手線、新幹線、名鉄特急、岐阜バス経由で我が家に到着したのが7時ちょっと前。お疲れさまでした。(完)